

学部 / 看護専門領域 / 看護の実践

科目コード：120409

## 成人看護学実習A Practicum:Adult Nursing A

担当教員	紺家 千津子、大西 陽子、大橋 史弥				
実務経験	複数の教員が担当しており、全員に病院等の勤務経験がある。				
開講年次	3年次後期	単位数	2	授業形態	実習
必修・選択	必修	時間数	90		
Keywords	周手術期看護、慢性疾患の急性増悪、急性期看護、麻酔侵襲、手術侵襲、術後合併症、早期離床				
学習目的・目標	【目的】 急性期の状況にある成人期の患者・家族を包括的に捉え、状況の変化に即した適切な看護を実践する能力を養う。 【目標】 1. 生活者として急性期の状況にある患者の身体的・精神的・社会的な特徴が理解できる。 2. 急性期の状況にある患者を理解し、援助ができる。 3. 治療・検査を受ける対象の身体的・精神的・社会的状況を理解し、援助ができる。 4. 家族・近親者の抱く不安や役割を理解し、必要な援助ができる。 5. 医療従事者間の協働の重要性について考え、各々の役割が理解できる。				
授業計画・内容					
回	内容				
	1. 周手術期、あるいは慢性疾患の急性増悪期の状況にある人を1名受け持ち、その患者を通して学ぶ。 2. 実習前、成人期特有の健康障害の急性期にある対象の概要について事前学習して臨む。 3. 受け持ち患者の看護計画を立案し、実践、評価する。 4. 実習中は定期的なカンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める。 5. 実習の目的・目標に関連したテーマでカンファレンスを行う。 6. 学習内容 ①生活者として急性期の状況にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を理解する。 ②変化しやすい状況の身体をアセスメントする。 ③障害部位と機能障害に対する身体的・心理的苦痛、健康レベルとその予後、社会的役割への影響を理解する。 ④治療・検査を受ける患者を理解する。 ⑤苦痛や不安を軽減するための援助、医療器機の使用、集中治療室の環境を理解する。 ⑥家族・近親者に対する援助について学ぶ。 ⑦医療従事者間における協働の重要性を理解する。 7. 所定の受け持ち患者の記録を行う。				
教科書	疾病・障害論で使用した教科書及びテキスト 成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護方法論演習Ⅰで使用した教科書及び資料				
参考図書等	病気が見えるシリーズ Vol.1 Vol.2 Vol.4 Vol.7 Vol.9 Vol.11 看護学大辞典 第6版 メジカルフレンド社（図書館 e-book利用可）				
評価指標	実習期間の2/3以上、出席することにより評価の対象とする。 その上で、看護ケアの提供状況と取り組み姿勢50%、対象理解と看護過程における思考の整理25%、カンファレンスでの発表、自己の振り返り等25%				
関連科目	成人看護学領域で学んだ科目と直結する 成人看護学実習B 統合実習				
教員から学生へのメッセージ	ここで出会う対象（患者）の状況は、短時間に急速に変化します。その時、対象はどのような反応を示すのでしょうか？そしてどのような援助が必要なのでしょうか？ 自分の観察力、洞察力、判断力を発揮し、また自分の課題とも向き合い自己成長につなげてください。				